

カメラは聖のなかに俗と  
俗のなかに聖なるものと  
見た!

最新作『倭文(しづり)旅するカジの木』公開記念  
北村皆雄監督傑作選

# 聖なる俗なる聖

in  
大阪

開催決定

7/13 sat - 7/19 fri

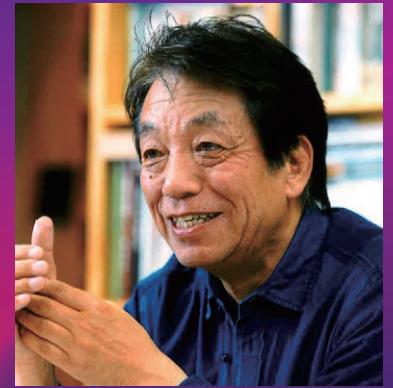
企画 ヴィジュアルフォーカロア  
<https://shizuri-movie.com/selection/>

ヴィジュアル  
フォーカロア

## 北村皆雄監督傑作選「聖なる俗 俗なる聖」 7月13日(土) ~ 19日(金) 第七藝術劇場にて開催!

「神の島」と呼ばれ、琉球王朝最大の聖地とされる久高島で12年に一度行われる儀式「イザイホー」を映した幻想映画『カバールの馬』(1969)、西表島の最果てのムラの在来信仰と移住者との軋轢を赤裸々に描いた『アカマタの歌』(1973)。北村皆雄は日本とアジアの「辺縁」に赴き、そこに生きる人間の生きざまを映像に焼き付けてきた。障害を持ちながら自らの身体を芸にして世間を生き抜く見世物一座を記録した『見世物小屋』(1997)。放浪の俳人・井上井月の謎めいた生涯を辿る『ほかいびと』(2011)。あの世での幸福を願って死者の靈同士を結婚させる韓国漁村の習俗を濃密に記録した『冥界婚』(2016)。アイヌ長老の入魂の祈りを目撃した『チロンヌカムイ イオマンテ』(2021)。

1970年代から「映像民俗学」を標榜する北村は、時にフィクションとドキュメンタリーを駆使しながら、虚実のあいだに現れる「聖と俗」をまるごと捉えようとしてきたのだ。最新作『倭文(しづり)旅するカジの木』(2024)の公開を記念して、前衛的映画作家、ドキュメンタリー映画監督、テレビディレクター、冒険家、映像民俗学者と多様な顔をのぞかせる北村皆雄の60年の映画制作をふりかえる傑作選を開催する。早大在学中に前衛美術集団「ハイレッドセンター」の作品を取り入れて制作した処女作『白い影への対話』(1964)、即興による演出が光るテレビ番組『津軽じょんがら女考—青森—』(1976)を特別上映。



※上映後トークは、ゲストの都合等により変更・中止となる場合があります。予めご了承ください。  
※『チロンヌカムイ イオマンテ』はアブリ UDCastによるバリアフリー音声ガイド、バリアフリー日本語字幕配信に対応しています。

UDC  
cast



	7/13(土)	7/14(日)	7/15(月・祝)
12:30 ~	初期3作品 (73分)	アカマタの歌 (84分)	チロンヌカムイ イオマンテ (105分)
上映後トーク	川崎弘二(現代音楽研究家) 北村皆雄監督	北村皆雄監督	北村皆雄監督
15:10 ~	ほかいびと (119分)	見世物小屋 (119分)	冥界婚 (104分)
上映後トーク	北村皆雄監督	北村皆雄監督	北村皆雄監督

	7/16(火)	7/17(水)	7/18(木)	7/19(金)
12:30 ~	アカマタの歌 (84分)	冥界婚 (104分)	チロンヌカムイ イオマンテ (105分)	初期3作品 (73分)
14:50 ~	ほかいびと (119分)	初期3作品 (73分)	見世物小屋 (119分)	アカマタの歌 (84分)

料 金 全席指定／オンライン予約あり

一般: 1,600円／シニア: 1,300円

学生: 1,000円／劇場会員: 1,100円

その他劇場規定の割引・サービスデー適用あり

### 第七藝術劇場

〒532-0024 大阪市淀川区十三本町  
1-7-27 サンポードシティ 6F  
TEL: 06-6302-2073  
阪急 十三駅西改札口 徒歩3分



進行: 遠藤協 デザイン: 島田薫

1970年代から  
「映像民俗学」と標榜する北村は、  
時代劇や、チベットなど秘境での大型企画を数多く実現した冒険家としての顔もあわせ持つ。諏訪の古代史の探求から始まった日本文化の古層へのアプローチは多方面にわたり、映像と文筆によって独自の「映像民俗学」を開拓してきた。神の島と呼ばれる沖縄・久高島の記録を1966年以来続けており、久高島の記録を

北村皆雄  
(きたむらみなお) 1942年長野県生まれ。早稲田大学第二文学部演劇専修を1965年に卒業後、記録映画やテレビドキュメンタリーの監督となる。1964年「映像芸術の会」に参加し機関誌『映像芸術』の編集委員を務める。1978年に映画作家の野田真吉、宮田登(民俗学者)、野口武徳(社会人類学者)らと日本映像民俗学会を創設。1981年に映像制作会社ヴィジュアルフォークロアを設立し、日本とアジアで数多くのテレビ番組を制作する。エベレストには3回遠征、1988年には山頂からの史上初のTV生放送に参加、世界危険とされたアイスフォール上(6200m)から中継した。ヒマラヤ、チベットなど秘境での大型企画を数多く実現した冒険家の古層へのアプローチは多方面にわたり、映像と文筆によって独自の「映像民俗学」を開拓してきた。神の島と呼ばれる沖縄・久高島の記録を1966年以来続けており、久高島の記録を

## 初期3作品・特別上映

北村皆雄は  
日本とアジアの  
「辺縁」に赴き、  
ここに生きる人間の  
生きざまと映像に  
生きざまと映像に  
焼き付けてきた。



八重山諸島の西表島・古見の祭には、「アカマタ」という仮面仮装の来訪神が登場する。撮影隊はアカマタに魅かれて島を訪れるが、秘儀ゆえに撮影を拒まれる。スタッフはアカマタの出ない映画を撮ることになる。17軒の家々を一軒づつ訪ねてライフヒストリーを記録。見えてきたのは、アカマタを守る土着の民と新興宗教を信ずる移住者の対立だった。一方、島を去り都会で暮らす人々は、「アカマタ」を心に抱いて生きていた。カメラの暴露性を撮影現場で自覚的に転換し、目に見えないムラの論理を撮ろうとした作品。北村は、本作以降「映像民俗学」を正式に標榜するようになる。語りは、村人の話を再構成するスタイルをとる。日本復帰の年(1972)撮影。

【撮影】柳瀬裕史【制作】松村修、小川克巳ほか【編集】北村皆雄【音楽】上地昇【録音】石子利之【語り】鈴木瑞穂(1973年/84分)

### 『アカマタの歌 海南小記序説／西表島・古見』



かつて祭りの場に忽然と現われ、不思議で怪しい世界に人々をいざなった見世物小屋。飲んだ金魚を生きたまま釣って出す、飲んだ碁石を黑白分けて出すなど、想像を絶する芸で観客の視線をわしづかみにした「人間ポンプ」こと安田里美とその一座の興行を内側から記録。一座の9人は誰しも障害を抱えているが、本物の家族のように支え合って生きている。社会保障に頼れなかった時代、医者も法律も宗教も救えない人たちを「見世物小屋」が救っていた。自らの身体を芸として、虚実の間を軽々と行き来する芸人たちの生きざまを、秩父夜祭興行の中にとらえた。

【企画協力】鵜飼正樹、上島敏昭【撮影】明石太郎・高橋慎二【編集】北村皆雄【制作】三浦庸子【語り】麿赤兒【出演】安田里美興行社(1997年/119分)

### 『見世物小屋 —旅の芸人・人間ポンプ一座』



芥川龍之介や種田山頭火、金子兜太らが高く評価した俳人・井上井月(いのうえ・せいげつ)。幕末から明治にかけて30年間、信州伊那谷を放浪し、一宿一飯のお礼に俳句を残し、やがて野垂れ死に同然に死んだ。その生涯をドキュメンタリーとフィクションで描く。舞踊家・田中泯が井月を演じると同時に、ゆかりの地を訪ねる現代の旅人となることで、井月の謎めいた生涯が次第に実体化していく。北村の故郷・伊那谷の人々が80年をかけて採集した1800句をもとに、彷徨える井月の魂を田中の身体に憑依させるが如く完成させた。語りは俳優・樹木希林。音楽は現代音楽家の一柳慧。

【撮影】高橋慎二、金沢裕司、明石太郎、北村皆雄【編集】田中藍子【技術】黒木禎二【照明】小西俊雄【音楽】一柳慧【音響】齋藤恒夫【衣装】山口源兵衛【制作】三浦庸子【制作実行委員長】堀内功【主演】田中泯【語り】樹木希林(2011年/119分)

### 『ほかいびと —伊那の井月』



1999年、34歳の韓国人が遠洋漁業中に行方不明になった。誤って海に落ちたのか、それとも事件なのか? 残された親族は、ムーダンと呼ばれるシャーマンの一団に依頼して、亡者のあの世での幸福を願い、死後結婚を執り行う。花嫁は失恋自殺をした27歳の女性。すると死者の靈が生者に憑依し、家族への想いや現世への未練をとうとう語りはじめる。死者と生者の感情が激しく交錯し、哭きと恨のめくるめく世界が劇的に立ち現れる。韓国東海岸で活躍したムーダンのリーダーで人間文化財の金石出(キム・ソクチュル)一座の貴重な記録。2014年に起きたセウォル号沈没の悲劇を契機に、撮影から15年あまりを経て完成させた。

【撮影】毛利立夫、北村皆雄【編集】田中藍子【出演】金石出とその一団【学術監修】崔吉城【翻訳】金惠燕【制作】三浦庸子(2016年/1999年撮影/104分)

### 『冥界婚』



1986年、北海道・屈斜路湖を望む美幌峠で「チロンヌプカムイ イオマンテ(キタキツネの靈送り)」が行われた。狩猟民であるアイヌの伝統的な考えでは、動物は自らの肉や毛皮をみやげにして人間の國へやってくる。人々は、キタキツネをわが子のように育てると、祈りを捧げ、歌や踊りで喜ばせ、みやげを背負わせて神の國へ送る。不世出の伝承者と言われる日川善次郎エカシが、この珍しい神事を75年ぶりに甦らせる。その入魂の祈りを、アイヌ語研究の第一人者中川裕氏が全てアイヌ語で書き起こし、現代日本語訳をつけた。

【語り】豊川容子【音楽】豊川容子+nin cup【司祭者】日川善次郎エカシ【企画・スチール】堤大司郎【監修・カムイノミ対語訳】中川裕【制作】三浦庸子(2021年/1986年撮影/105分)

### 『チロンヌプカムイ イオマンテ』



**最新作『倭文(しづり) 旅するカジの木』  
全国順次公開中!**

【語り】富永愛【神話出演】麿赤兒  
+ 大駒駄艦 コムアイ【倭文制作】  
山口源兵衛(帯匠)、石川文江(楮  
布織)、西川はるえ(染織家)、妹尾  
直子(紙布・樹皮布)



なぜ人は衣服をまとうのか?  
化学繊維が人間の体を覆い尽くす現代に  
(衣)の神秘的な始源へとダイブする  
ドキュメンタリー